

かわ い み ど いり
川井御戸入

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 川井
- ◇ 保持団体 川井郷土芸能保存会

閉伊氏が地頭^{じとう}となった鎌倉時代から、御戸入は神社の落成や御神体の開帳にあたり、神前に奉納された踊りとされています。

早池峰神社別当の古文書によれば、慶長3年(1593年)の早池峰新山大権現^{せんぐうしき}遷宮式^{せんぐうしき}において、時の領主南部氏のもと「戸河上下諸旦那^{へいがわかみしもしよだんな}」即ち刈屋、和井内、花輪、川井、箱石、川内、夏屋の各要地の地頭をはじめ、多数の参列者の前で奉納されたとされています。

『御戸入』は勇ましい太鼓に合わせて円陣で踊り、その由来は昔の城攻めの場面を再現したものといわれています。踊りは、通り、一番、二番、締め^すの4段で構成され、囃子^{はね}は太鼓、摺り鉦^{すかね}2人に笛がつきます。

天狗を先頭に入場し、米まきが続き、踊り手は、バラ（竹刀）、太刀、長刀、鉞（まさかり）、棒、キギ（杵）、弓が二人一組で踊ります。持ち物を振りかざし、飛び跳ねながら勇壮に踊ります。

